

II. 履修の要領

■ 2024 年度からの授業形態について

① 2024 年度からの新しい学年暦の導入にあたっての授業形態の変更

② 遠隔授業の卒業必要単位数の算入上限について

の重要なお知らせです。

すでにホームページ（新入生については入学前サポートサイト）等でもお知らせしていますが、以下の URL（または QR コード）より確認の上、履修してください。

授業 1 週目（DO Week）と授業 15 週目のオンデマンド配信の受講方法について

2024 年度からの新学年暦では通常の教室での授業は 13 週の授業期間に受講し、残り 2 週分の授業はオンデマンドで受講することを基本とします。授業 1 週目（DO Week）のオンデマンド配信はシラバスから URL を確認、受講の上、指示された課題等に取り組んでください。具体的な受講手順については大学 HP に掲載しています。以下 URL もしくは QR コードから詳細を確認してください。

また、授業 15 週目のオンデマンド配信を含めて、授業 2 週目以降に行われるオンデマンド配信の受講方法については科目担当者からの指示に従ってください。

2024 年度からの学年暦

https://www.doshisha.ac.jp/students/new_calender/index.html



「学則第 9 条の 5 対象」について

同志社大学学則第 9 条の 5 では、文部科学省令である大学設置基準に規定されている遠隔授業の卒業必要単位数への算入上限を規定しており、学修支援システム DUET やシラバスに掲載している「学則第 9 条の 5 対象」は履修中の科目、もしくは単位修得済の科目がその「対象」であるか「対象外」であるかを示すものです。

本学では、2023 年度までは新型コロナウイルス感染症における特例措置等により、すべての科目を「学則第 9 条の 5」の「対象外」としてしています。これにより、すべての修得単位が卒業必要単位数へ算入されるため、この表示に留意する必要はありませんでしたが、2024 年度以降は特例措置の適用がなくなるため、この項目に留意して履修計画を立てる必要があります。

所属する学部によって卒業必要単位数への算入上限単位数が決まっており、各科目が「対象」か「対象外」かについてはシラバスで確認してください。詳細については以下 URL もしくは QR コードから確認してください。

「学則第 9 条の 5 対象」について

<https://duet-man.doshisha.ac.jp/student/article9-5.pdf>



■科目登録について

この項では、科目登録の大まかな手順を紹介しています。

詳細は『登録要領』をよく参照してください。

1 今年1年の履修計画を立てる

学習計画の考え方を読み、将来の目標を念頭に置いて、学習をどのようにすすめるかを検討してください。

『履修要項』参照

⇒ II. 履修の要領、必修科目、各選択科目（I類～6類）、卒業必要単位数等

⇒ III. 2024年度 神学部開講科目一覧表

⇒ IV. 2024年度 免許・資格関係科目一覧表

⇒ V. 2024年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻科目一覧表

2 履修科目を選ぶ

以下を確認し、履修科目を決めてください。

- ① どんな科目があるか？ → 『履修要項』「III. 2024年度 神学部開講科目一覧表」
「IV. 2024年度 免許・資格関係科目一覧表」
「V. 2024年度 サイエンスコミュニケーター養成副専攻科目一覧表」

別冊『全学共通教養教育科目履修要項』

- ② その科目はどんな内容か？ → 『シラバス』 <https://syllabus.doshisha.ac.jp/>
③ その科目はいつどこでやっているか？ → 各種時間割表（下記）

神学部科目のみ → 神学部・神学研究科時間割

他学部科目含む → 今出川校地：[2024年度生用] [2023年度以前生用]

※京田辺校地時間割は神学部事務室で閲覧してください。



3 登録手順の確認をする

『登録要領』の該当箇所を確認し、登録準備をしてください。

- ① 科目登録の概要を理解・・・「II. 科目登録の要領」
- ② 登録日程の確認・・・「I. 2024年度神学部 主な日程表」
- ③ オンデマンド授業期間（DO Week）に登録を希望する科目のオンデマンド配信を受講し、登録科目を決定する。
- ④ 時間割を作成・・・巻末の「時間割控」
- ⑤ 各科目の登録要領の注意点や再度登録日程等を確認

科目によっては先行登録が必要な場合があります。

⇒ 科目毎に登録日時や手続場所が指定されますので確認してください。

科目登録に関する日程や教室などは、『登録要領』のほか掲示板やホームページ等にも掲載されます。決められた期日を過ぎると手続きができませんので、十分に気をつけてください。

4 「DUET」で科目登録を行う

科目登録は、基本的にWEB上で行います。

自宅や大学のPCコーナーなどで、決められた期間内に科目登録をしてください。

学修支援システム DUET : <https://duet.doshisha.ac.jp/>

科目登録は「開講科目一覧表」等に記載された「登録コード（科目コード＋クラスコード）」で行います。

登録コードを間違えると正しい登録ができませんので、注意してください。

登録期間中は確認等で問合せを行うことがあります。必ず連絡が取れるようにしておいてください

5 登録科目確認表を DUET で確認する

- ① 授業開始後、「登録科目確認表」を DUET で確認します。登録エラーの有無を確認してください。
- ② エラーがある場合は、必ず「登録修正」の手続きを行ってください。エラーがあるにも関わらず「登録修正」を行わない場合、強制的に登録が削除される場合があります。
- ③ 登録エラーがなく、計画どおりの科目登録ができていることを確認した後、科目登録の手続きは完了します。

※先行登録科目のエラー修正は科目により日時、場所が異なるので、DUET や掲示板で確認してください。

登録エラーの例	×	同一学期の同一曜日・講時に2科目登録している。
	×	履修条件を満たしていない。
	×	連続した講時に今出川と京田辺で科目登録している。

6 登録科目の履修を中止することができる（授業開始約1ヶ月後）

授業を約1ヶ月受講してみて「自分の思っていた内容と違う」「望ましい評価が得られそうもない」という場合は、その科目の履修を中止することができます。履修中止以降の変更はできませんので、よく考えて手続きしてください。

注意 就職活動や大学院受験のため、企業や大学院に提出する卒業見込証明書を発行するためには、卒業に必要な科目を全て登録しておく必要があります。（※）

春学期の登録の際には十分に気をつけてください。

（※）履修中止により卒業に必要な科目の登録が無くなった場合、卒業見込証明書の発行ができなくなります。

■ GPA 制度の導入と成績評価等について

GPA 制度とは、大学教育における成績評価制度のグローバル・スタンダードとして、現在、国際的にもっとも認知度が高く、日本の大学においても、標準的成績評価制度として普及している制度です。

◆ GPA 制度とは

各科目の成績を以下の判定基準にしたがい、5段階（A、B、C、D、F）で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点（Grade Point）を付して、1単位あたりの評点平均値（Grade Point Average）を以下の計算式で算出します。GPAは、不合格を意味するF評価の成績も含めて算出しますが、F評価であった科目を再履修してD以上の評価を得た場合、最後に付いたF評価のみ新たな評価に書き換えられて算出されます。次ページの「成績評価の書き換えについて」を参照してください。

[GPA 判定基準]

評価	評点	判定内容
A	4.0	特に優れた成績を示した
B	3.0	優れた成績を示した
C	2.0	妥当と認められる成績を示した
D	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した
F	0.0	合格と認められるに足る成績を示さなかった

GPA 算出方法

$$\frac{\text{A} \times 4.0 + \text{B} \times 3.0 + \text{C} \times 2.0 + \text{D} \times 1.0 + \text{F} \times 0.0}{\text{A} + \text{B} + \text{C} + \text{D} + \text{F}}$$

①～⑤は A～F の評価がついた科目の単位数の合計

成績通知書には履修した全ての科目の評価と GPA が記載され、成績証明書には不合格科目を除く履修した全ての科目の評価と GPA が記載されます。

◆ 履修中止制度

詳しくは『登録要領』『II. 科目登録の要領』を参照してください。

春、秋各学期の授業開始後1ヶ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと判断した科目については、定められた期間中に履修の中止を認めます。履修中止をした科目は「履修中止」の記録が残りますが、GPAの算出には用いません。

ただし、あらかじめ履修中止を認めないと定めている科目もあります。履修中止の日程や履修中止ができない科目については、各学部の履修要項、登録要領、掲示板を参照してください。

◆ 追試験制度

詳しくは「学業履修について」の紹介ページ（74ページ）を参照してください。

学部生（正規学生、科目等履修生、外国人留学生特別学生）の全年次生を対象として病気またはやむを得ない事由により、春学期および秋学期の終りに実施される定期試験、ならびに神学部教授会が認める臨時試験（中間テスト等）を受験できなかった場合、追試験の申請を行うことができます。事由によっては事前の届出が必要な場合があります。

◆採点質問

成績通知書に記載された成績評価に関する質問や異議申し立てをしたい場合は、成績通知書交付日から定められた期間に、神学部・神学研究科事務室に採点質問票を提出してください。科目を設置している事務室が学生に代わって授業担当者に問い合わせし、結果は文書または口頭で回答します。

◆クレーム・コミッティ制度

大学は学生により質の高い教育を提供するためにクレーム・コミッティ制度を設けています。

受講している科目の授業内容や授業方法に関する改善の要望がある場合は、神学部・神学研究科事務室に相談してください。学生からの申し出を受けて、各学部等のクレーム・コミッティが授業担当者から事実関係を調査し、原因や対策について回答します。なお、いかなる場合であっても、相談者の学生 ID や氏名が授業担当者に明かされることはなく、また相談によって決して不利益を被ることはありません。

◆成績評価の書き換えについて

GPA 制度導入後、F 評価であった科目を再履修して D 評価以上を得た場合、直近の F 評価は新たな評価に書き換えられます。

(科目コードが同じであればクラスコードが異なっても書き換えられます。)

《例 1》

履修年度	科目名・クラス	評価		履修年度	科目名・クラス	評価
2023	神学入門-I	F	書き換え	2024	神学入門-II	C

2023 年度の「F」評価が、2024 年度の「C」評価により書き換えられます。書き換えにより 2023 年度の「F」評価の評点「0.0」は GPA に算入されなくなります。

《例 2》

①

履修年度	科目名・クラス	評価		履修年度	科目名・クラス	評価
2023	実践神学総論	F	成績確定	2022	実践神学総論	F

① 2023 年度の「F」評価によって 2022 年度の「F」評価は確定。

②

履修年度	科目名・クラス	評価		履修年度	科目名・クラス	評価
2023	実践神学総論	F	書き換え	2024	実践神学総論	C

② 2023 年度の「F」評価が 2024 年度の「C」評価によって書き換えられます。書き換えられたことによって 2023 年度の「F」評価は GPA の算出対象外になります。

《例 3》

①

履修年度	科目名・クラス	評価
2022	キリスト教史入門 I	F

成績確定
GPA 対象

合否評価科目として履修*

②

履修年度	科目名・クラス	評価
2023	キリスト教史入門 I	不合格

GPA 対象外

③

履修年度	科目名・クラス	評価
2024	キリスト教史入門 I	C

GPA 対象

① 2022 年度の GPA において、2022 年度の「F」評価は GPA の算出対象になります。

② 2023 年度に同一科目を合否評価として履修したため、2023 年度の GPA において 2023 年度の「不合格」評価は GPA の算出対象外となります。そしてこの時点で 2022 年度の「F」評価は以後の GPA 算出対象になることが確定します。

③ 2024 年度に同一科目を履修し D 以上を得たので、2024 年度の GPA において、2024 年度の「C」評価と、以前に確定している 2022 年度の「F」評価が GPA の算出対象になります。

※ (注) 「合否評価科目として履修」：段階評価を行う科目を合否評価に変更して登録することができます。19 ページ◆合否評価の卒業必要単位数および『登録要領』『II. 科目登録の要領』を参照してください。

■ セメスター制について

セメスター制では、1年を2つの学期（春学期、秋学期）に分け、学期ごとに授業が完結し、試験等を行って成績評価をすることになります。各学期終了後、成績通知書を交付します。

■ 登録単位数について

科目を履修するにあたり、1年間の最高登録単位数と最低登録単位数、各セメスター（学期）の最高登録単位数と最低登録単位数は下の表の通りです。

秋学期の登録科目変更時に、年間最高登録単位数まで履修科目を追加登録することができますが、春学期に修得した単位数が春学期登録単位数より少ない場合でも、秋学期の登録変更時に年間最高登録単位数をこえて履修科目を追加登録することはできません。

また、履修中止制度による履修中止をおこなう場合でも、学期登録単位数が登録最低必要単位数である2単位を下回るような履修中止はできません。

【2014年度以降生】

- 年間最高登録単位数：44単位（1、2年次）
46単位（3、4年次）
- セメスター最高登録単位数：30単位
- セメスター最低登録単位数：2単位

春学期	2～30単位	秋学期	2～30単位
年間	4～44単位（1、2年次）		
年間	4～46単位（3、4年次）		



3年次生の場合

例えば、春学期に30単位、秋学期に12単位登録していて、春学期に24単位しか修得できなかったとしても、秋学期に追加登録できる単位数は4単位です。

※ 2022年度よりすべての年次生においてセメスター最低登録単位数が6単位→2単位に変更となりました。

◆ 合否評価の卒業必要単位数

詳しくは『登録要領』「II. 科目登録の要領」を参照してください。

合否評価の科目・・・卒業単位として認められる上限は 24単位

《例》合否評価科目の単位を25単位以上修得 ⇒ 24単位までしか卒業必要単位として認められません。

◆ 科目ナンバリングについて

各科目には科目ナンバリングが定義されています。

科目ナンバリングとは、授業科目に番号・分類を付与することで、学修の段階や順序が分かるように表示したものです。各科目の履修水準や学問分野を参考に履修するだけでなく、留学先の大学で授業を履修する際、本学授業科目との単位互換の目安として利用することもできます。必要に応じて活用してください。

なお、科目ナンバリングについての詳細は、以下のURLを確認してください。

<https://clf.doshisha.ac.jp/clf/numbering/numbering.html>

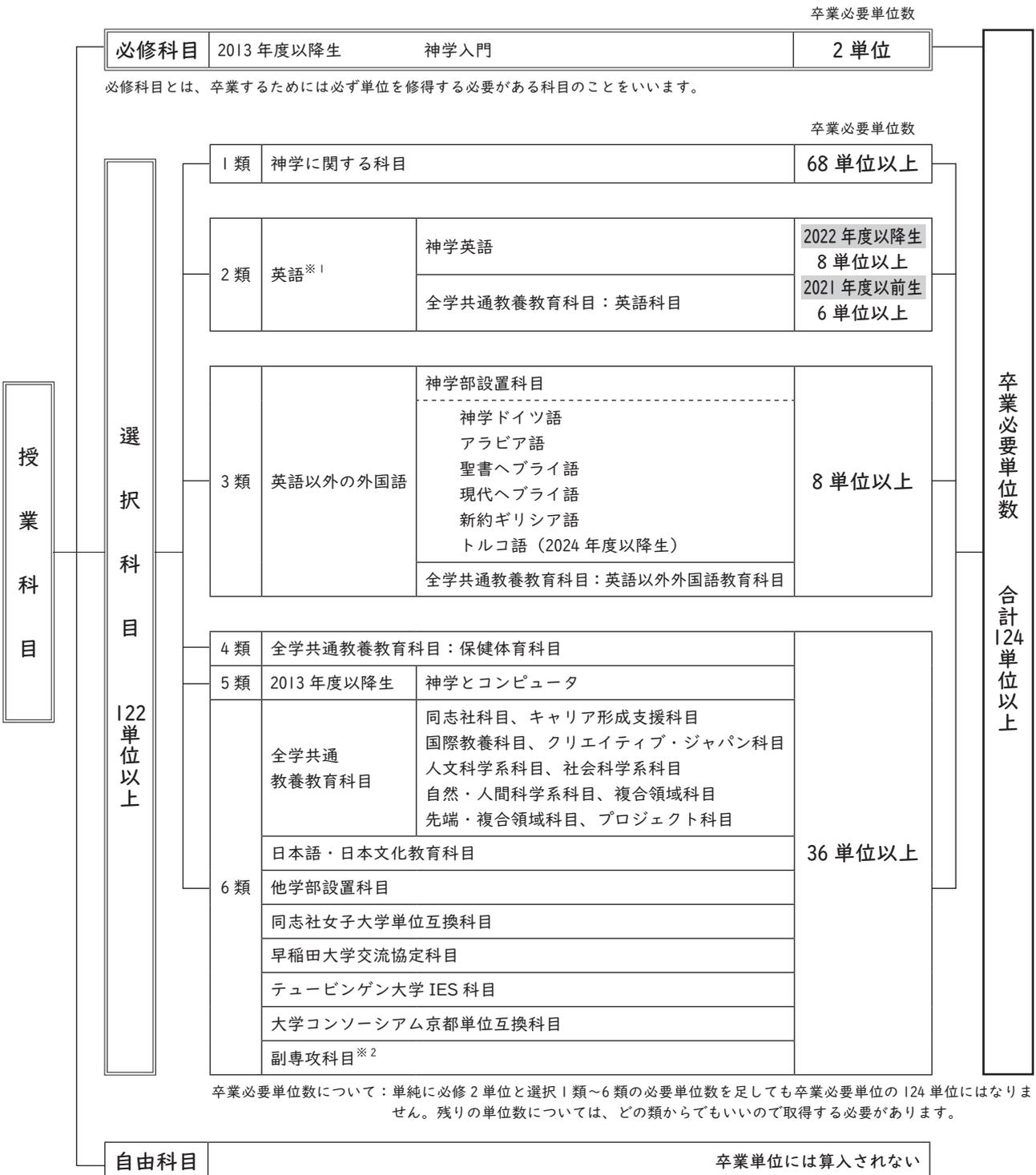
ただし、他学部の科目については、当該学部が定める科目ナンバリングの履修配当年次または履修を推奨する年次と、本学部で認める配当年次が異なる場合があります。

■卒業必要単位について

学部を卒業するには、4年以上在学して所定の単位を修得する必要があります。

どのような科目をどれだけ修得すれば卒業に必要な単位を満たすかについて、神学部は「卒業必要単位」として以下の図のように定めています。

なお、合否評価科目（上限24単位）や後述する単位認定評価の科目は卒業必要単位として認められる単位数に上限がありますので注意が必要です。



※1：2類英語科目の卒業必要単位数は2021年度以前生：6単位、2022年度以降生：8単位です（全学共通教養教育科目の英語科目のみ、もしくは神学英語と全学共通教養教育科目の英語科目を組み合わせる卒業に必要な単位数を修得してください）。なお、外国語検定試験のスコアによる単位認定の制度もあります（24ページ参照）。

※2：副専攻科目のうち神学部設置科目は、設置されている類の単位とします（(例)旧約聖書学入門Ⅰは1類に算入されます）。

■必修科目について

必修科目とは、卒業するためには必ず単位を修得する必要がある科目のことをいいます。

2013 年度以降生	「神学入門」	2 単位
------------	--------	------

■選択科目について

選択科目とは、卒業に必要な単位として認められる科目のうち、必修科目以外の科目をいいます。神学部の選択科目は、以下の通り 1～6 類に分かれています。

選択科目Ⅰ類 神学に関する科目

選択科目Ⅰ類はいくつかの科目分野に分かれています。それぞれの分野については「2. 各科目分野について」を参照してください。科目選択の際には、神学の基礎知識を学び神学的思考を十分に養うため、以下の科目分野、また講義科目と演習科目のバランスを考慮してください。

科目の選択にあたっては、「シラバス」(WEB)で科目内容を確認してください。なお、科目名にある番号は、科目の難易度を示すものではありません。

1. 基本科目について

各科目分野に「1 年生基本科目」として設定されている科目があります。1 年生基本科目は神学の諸分野についての基本的な知識の修得をめざすものであり、1 年次に各分野をバランスよく履修することを強く勧めます。1 年生基本科目は、「神学部開講科目一覧表」の備考欄で確認することができます。

2. 各科目分野について

① 聖書学

聖書(旧約聖書・新約聖書)はキリスト教信仰の土台ともいえるべきものです。聖書学では、聖書の思想はもちろんのこと、そうした思想を生み出した歴史的背景も学びます。また、聖書として成立するまでのプロセスや、成立してから現在に至るまでの聖書解釈の歴史も取り扱います。聖書ヘブライ語・現代ヘブライ語と新約ギリシア語を習得することにより、聖書の原典を読めるようになります。

② キリスト教史

キリスト教は 2000 年もの長い歴史をもっています。キリスト教を理解するためには、その歴史的展開をしっかりと把握しておく必要があります。とくに、ヨーロッパ、アメリカ、日本におけるキリスト教史を深く学びます。キリスト教史を通して、キリスト教が宗教にとどまらず、文化や政治などいろいろな領域に大きな影響を及ぼしてきたことを知ることができます。

③ 組織神学

神、救い、人間、社会などに関するキリスト教思想を体系的に学びます。具体的には、代表的なキリスト教神学者の思想を研究します。また、現在わたしたちが直面している諸問題(環境問題や生命倫理など)も考察対象として取り上げ、キリスト教的なアプローチを行います。

④ 実践神学

教会、礼拝、説教など、キリスト教信仰の具体的な形態や現象を研究します。キリスト教が広く社会の中でどのような働きをしているかについても学びます。メディア、カウンセリング、人権と差別、現代医

療などとキリスト教との関わりも取り上げます。

⑤ キリスト教文化学

キリスト教と音楽、キリスト教と教育、キリスト教と文学などをテーマとして取り上げ、文化のいろいろな領域におけるキリスト教の影響や役割を知ることができます。キリスト教に根ざした幅広い教養を身につけることをめざします。また、一般就職に備えるための科目も提供します。

⑥ イスラーム学

預言者ムハンマド、聖典クルアーンやハディース、それにイスラーム神学やイスラーム法学というイスラームの根幹に関わる基礎的な分野を深く学ぶことができます。

⑦ イスラーム文化学

イスラームに関わる思想、政治、社会、文化など、応用的な分野を総合的に学ぶことができます。近・現代世界を認識する上で、イスラーム理解が欠かせないことを確認します。

⑧ 古代近東学

古代近東学とはエジプト学、アッカド学、ヒッタイト学、ウガリット学などの総称です。これらの古代文化に由来する文書テキストや考古学的資料を研究することによって古代世界の言語・歴史・社会・宗教などを解明します。また、旧約聖書のよりよい理解にも寄与します。

⑨ ユダヤ学

旧約聖書およびユダヤ教とユダヤ人に関して、思想や文化や歴史などあらゆることを学ぶことができます。ユダヤ教の理解はキリスト教やイスラームを理解するうえで重要ですし、ユダヤ人に対する知識は現代の政治や社会を分析するときに大いに役立ちます。

⑩ 宗教学

広く宗教について学びます。他宗教との比較を通して、キリスト教をさらに深く理解することができます。さらに、宗教研究をしていく上で必要な分析方法や視点を習得します。

上記のほか、「卒業論文」（「Ⅰ．学習計画の考え方」の下部の枠囲み記事（5ページ）も参照してください）と教職課程免許に必要となる科目の一部を選択科目Ⅰ類としています。

選択科目 2 類 英語

選択科目 2 類には全学部を対象に提供される英語科目と、神学部設置科目である神学英語があります。「神学英語」は、英語力を高めるだけでなく、神学に関係する英語のテキストを講読することによって、神学の知識を身につけることをめざします。

2 類の卒業必要単位数を単に修得するだけでなく、4 年間にわたる英語の学習計画をたて、着実に英語力の向上を図ることが大切です。

なお、入学前および在学中に実用英語技能検定、TOEFL iBT[®]、TOEIC[®] LISTENING AND READING TEST で一定水準以上の成果を修めた場合は、2 単位を限度として 2 類の単位として認定します。詳細については「■神学部における単位認定について」（24 ページ）を参照してください。

（TOEFL iBT および TOEIC はエデュケーション・テスト・サービス（ETS）の登録商標です）

選択科目 3 類 英語以外の外国語

選択科目 3 類は英語以外の外国語です。全学部を対象に提供されるドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、基礎イタリア語と、神学部設置科目である神学ドイツ語、アラビア語、聖書ヘブライ語・現代ヘブライ語および新約ギリシア語、トルコ語（選択科目 3 類に算入されるのは 2024 年度以降生のみ）を履修することができます。いずれの外国語も選択可能ですが、キリスト教神学を中心に学ぶ場合はドイツ語、聖書ヘブライ語、新約ギリシア語、イスラーム学を中心に学ぶ場合はアラビア語、トルコ語、ユダヤ学を中心に学ぶ場合は現代ヘブライ語を履修することを勧めます。

なお、外国人留学生は日本語・日本文化教育科目の「日本語 1、日本語 2」「ビジネス日本語 C、D」の単位を修得すれば、選択科目 3 類の外国語の単位に振り替えることもできます。ただし、選択科目 3 類として登録するためには手続が必要ですので、科目登録前に神学部・神学研究科事務室へ申し出てください。

選択科目 4 類 保健体育

保健体育は、健康についての高度な理解を持ち、身体活動を通じて健康な自己を形成するとともに、生涯にわたる体育観を確立することを目的としています。

選択科目 5 類

神学と他の学問領域にまたがるテーマを取り扱います。神学の学際的研究を促進し、キリスト教との関わりのなかで幅広い教養を身につけることをめざします。

選択科目 6 類 全学共通教養教育科目、他学部設置科目等

神学部に設置されていない科目であっても履修可能な科目があります。

人間や世界を神学というひとつの視点からだけ考えるのではなく、他の学問分野を広く、深く学ぶことによって「多角的に」とらえることは今後ますます必要となります。神学を主としながら、さらに自分の興味のある分野の科目を選択して学んでいきましょう。

詳しくは『全学共通教養教育科目履修要項』、各学部『履修要項』等を参照してください。

■外国語検定試験 受験料補助について

神学部・神学研究科では、キリスト教の徳育に基づき、自由でのびやかな進取の気性に溢れ「良心を手腕に運用する」ことのできる、「考動する」グローバル人材を育成することを目指しています。その基礎的資質としての外国語運用能力を向上させるため、外国語検定試験の受験料を補助していますので、この制度を活用して、各人の語学力の把握・向上に努めてください。

補助対象試験、補助金額等の詳細は神学部掲示板にて確認してください。

■神学部における単位認定について

(神学部) 1-(2)、3、4 合わせて 60 単位以内とする。

1. 入学前における単位認定の上限数は以下のとおりとする。

(3 年次転編入学については 2-(2) 参照)

(1) 入学前に本大学の他学部生または科目等履修生、特別学生として修得した単位

→ 上限なし

(2) 入学前に本大学以外または短期大学で修得した単位 (科目等履修生として修得した単位を含む)、または短期大学および高等専門学校の専攻科で修得した単位

→ 60 単位以内

2. 3 年次から神学部在籍する場合における単位認定の上限数は以下のとおりとする。

(1) 転学部・転学科 → 上限なし

(2) 3 年次転編入学 → 卒業必要単位数の 2/3 (82 単位以内)

ただし本学出身者は 1-(1) を適用する。

3. 在学中における単位認定の上限数は以下のとおりとする。

在学中に修得した以下の単位 → 合わせて 36 単位以内

- ▶ 同志社女子大学の提供する科目
- ▶ 大学コンソーシアム京都が提供する他大学の科目
- ▶ 早稲田大学との学生交流制度による早稲田大学の科目
- ▶ 外国の大学に大学間協定・学部間協定にて在学留学し修得した科目

4. 英語の資格検定試験における単位認定の上限数は以下のとおりとする。

英語の資格検定試験 2 単位以内

以下に指定する外国語検定試験のいずれかの基準を 2022 年 4 月以降に満たしている者に限る。

種 類	1 単位認定	2 単位認定
実用英語技能検定	準 1 級	1 級
TOEFL iBT®	61 点以上	90 点以上
TOEIC® LISTENING AND READING TEST (「TOEIC IP® テスト」を除く)	600 点以上	800 点以上

・ 1 単位認定者が同一種類または違う種類の上級基準をクリアした場合は、1 単位を追加認定する。

・ 違う種類の同級基準を取得しても追加で単位は認定しない。

・ スコアは実施団体の定める有効期間内のものに限る。

・ 単位認定を希望する学生は以下の期間に神学部事務室で手続きを行うこと。

春学期登録期間：3 月 26 日 (火)～4 月 9 日 (火)

秋学期登録期間：9 月 13 日 (金)～9 月 27 日 (金)